

センター事業報告⑤ 【現地学習指導者研修会】

9月19日(木)に第5学年理科現地学習指導者研修会を開催しました。現地学習を行う黒部川の上流・中流・下流地点を実際に見学して回り、観察するポイントや安全面等を確認し、来る現地学習に備えることができました。

また、10月10日(木)に第3学年社会科現地学習指導者研修会を入善消防署と入善警察署で開催し、両職員の方々に詳しく説明を受けながら実際に施設を見学しました。

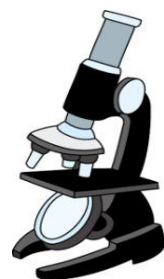


第78回 富山県科学展覧会

- ・研究努力賞 飯野小学校 1年 塚田 美紀 「よくとぶかみひこうきについて」
- ・研究努力賞 上青小学校 6年 草切 琢吾 「メダカの生態パート2」
- ・研究努力賞 入善西中学校 1年 塚田 美里 「界面活性剤について」

第57回 富山県発明とくふう展

- ・富山県教育委員会教育長賞 飯野小学校 4年 岡島 海 「自動物干し機」
- ・富山県発明協会会長賞 ひばり野小学校 1年 高田 流空 「ミニクーラー」
- ・優秀賞 黒東小学校 3年 島端 紗羅 「キャリアじょうろ」
- ・優秀賞 入善小学校 4年 上嶋 友結 「生がわきぼう止ハンガー」
- ・優秀賞 ひばり野小学校 4年 澤井 優真 「らくらくプッシュ」
- ・優秀賞 上青小学校 6年 板川 凌空 「最後まで使い切れるボトル」
- ・奨励賞 黒東小学校 1年 米山 芹真 「スッキリかわく カップハンガー」
- ・奨励賞 黒東小学校 3年 米山 晴琥 「車のシートがぬれない安(心)シート」
- ・奨励賞 入善小学校 3年 栗虫 玲羽 「風通しハンガー」
- ・奨励賞 飯野小学校 4年 池原 瑚桃 「きちんとスリッパ」
- ・奨励賞 ひばり野小学校 5年 岩崎 舞桜 「エコラックで楽に乾燥」
- ・奨励賞 入善中学校 1年 小坂 海翔 「便利な はんこケース」



第28回 富山県未来の科学の夢絵画展

- ・富山新聞社長賞 上青小学校 6年 梅川 珠美礼 「便利でかがやく未来」
- ・金賞 上青小学校 4年 上田 光葵 「うちゅうの中の自ぜん」
- ・銅賞 飯野小学校 4年 清田 湖乃 「花と魚が楽しく、くらせる世界」

☆ 新規購入図書紹介 ☆

◆「学力がぐんぐん上がる急上昇県のひみつ」

著者：千々布 敏弥

◆「アクティブ・ラーニングによる新全国学テ・正答力アップの法則」

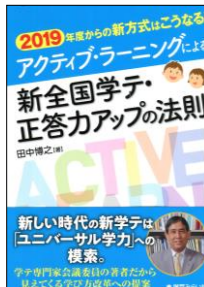
著者：田中 博之

◆「学級力向上プロジェクト3」

著者：田中 博之

◆「アクティブ・ラーニング『深い学び』実践の手引き」

著者：田中 博之



編集後記

2019年秋、ラグビーワールドカップが日本で開催され、熱戦が繰り広げられました。「にわかファン」という言葉が流行語大賞候補にノミネートされるほどの熱狂ぶりで、私もその一人です。本大会で、日本代表は史上初のベスト8進出という歴史的な快挙を成し遂げました。ラグビーの試合を目にし、日本代表選手が勝利のために互いを信頼し合い、自己犠牲を厭わず、献身的に動きながら仲間を生かす姿に大きな感動と勇気をもたらしました。そして、試合が終われば“ノーサイド”として互いを認め合い、思いやるというラグビー精神の素晴らしさを痛感しました。

早いもので、令和元年も残りあとわずかになりましたが、明るい夢と希望がもてる令和2年にしていきたいものです。

発行：入善町教育センター
〒939-0626

富山県下新川郡入善町入膳 5232-5
うるおい館3階

TEL:0765-72-0009 FAX:0765-74-2792

Eメール：nyuzen-ec@tym.ed.jp

ホームページ：http://www.nyuzen-c.tym.ed.jp



「『非認知的能力』を育成する視点で」

入善町立入善小学校

校長 鍋谷 義 継

10月に民生委員・児童委員の皆様をはじめ、入善高等学校の生徒の皆さんのご協力を得て、「入善町さわやかあいさつ運動」を行いました。この運動期間中、登校した子供たちは、互いに手と手をタッチさせながら「おはようございます」と元気のよい挨拶を交わしていました。「おはようございます」の挨拶は、人と人とが適切に関わるための言葉であり、一人一人が気持ちよく集団生活を送るためには必要不可欠な言葉のやり取りです。挨拶を交わす姿は何気ない朝の光景ですが、子供たちの社会性を育てていく上で大切にしたい教育活動の一つと考えています。

学校は学力を付ける場ではありますが、ただ単に知識を伝達するところではありません。教室には生育歴や性格が異なる子供たちが集まり、関わり合って一日の大半を過ごします。子供たちにとって学校は対人関係のつくり方はもちろんのこと、認め合い、励まし合うことの大切さを学んだり、折り合いを付けて集団生活を送ることのよさを味わったりする貴重な場といえます。そのため、集団生活を送る上で「他の人とうまく関わる力」や「目標に向かってがんばる力」、「自分の感情をコントロールする力」などを意味する「非認知的能力」の育成が重要となります。

これまでの教育活動では、どちらかと言えば知識及び技能の量や、思考力・判断力・表現力等の的確さを学習によって身に付けさせることに重きが置かれていました。ところが、時代の変化と共に子供たちが将来、社会でうまくやっていけるかどうかの鍵を握る能力は、計算ができる、漢字が書けるなど、試験で測れる「認知能力」よりも「非認知的能力」であることが最近の研究データから分かってきました。「認知能力」と異なり学力として数値化しにくいものですが、子供の社会的自立を支え、確かなものとする能力といえます。「非認知的能力」の支えがあってはじめて、身に付けた学力が生かされると考えてよいでしょう。

教師が子供たちの「認知能力」の向上を目指すことは、もちろん大切な仕事の一つですが、「非認知的能力」を育成する視点で教育活動を進めることも忘れてはいけないことであると考えます。例えば、発達の段階にもよりますが、何事もできて当たり前と捉えるより、できたことやがんばったことについてはタイミングを逃さず褒め、そのことに対する意味付けや価値付けをするのです。このことが、次の活動へつながる原動力となります。

幼少期における「非認知的能力」の育成の重要性を考えると、子供にはできる限り肯定的な言葉かけを心がけ、ちょっとした子供の「がんばり」や「分かる」、「できる」に教師が目を向け、安心感をもって学校生活を送れるようにしたいものです。そのことの着実な積み重ねが子供の自己肯定感を高め、「やる気」を最大限に伸ばしていく秘訣の一つであると考え、日々の教育活動に取り組んでいます。